

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成28年11月10日(2016.11.10)

【公表番号】特表2013-511722(P2013-511722A)

【公表日】平成25年4月4日(2013.4.4)

【年通号数】公開・登録公報2013-016

【出願番号】特願2012-540007(P2012-540007)

【国際特許分類】

G 0 1 N 33/543 (2006.01)

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

G 0 1 N 27/327 (2006.01)

G 0 1 N 27/416 (2006.01)

G 0 1 N 27/00 (2006.01)

G 0 1 N 21/27 (2006.01)

G 0 1 N 29/02 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/543 5 1 5 D

G 0 1 N 33/53 D

G 0 1 N 33/543 5 9 5

G 0 1 N 33/543 5 1 5 J

G 0 1 N 27/30 3 5 1

G 0 1 N 27/46 3 3 6 G

G 0 1 N 27/46 3 8 6 G

G 0 1 N 27/00 Z

G 0 1 N 21/27 C

G 0 1 N 29/02

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年9月27日(2016.9.27)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0069

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0069】

I g Gはオプソニンとして作用し、これは、例えば白血球による、貪食用の病原体を
製することが可能な物質である。 I g Gは、免疫アッセイで一般に添加されて、同時係属
 の米国出願第12/411,325号に記載されるような異好性抗体の干渉を管理し、本
 明細書に記述されるBNPカートリッジ内でアッセイビーズ上に存在する。その結果、I
 g Gのこの供給源(免疫アッセイデバイス内に存在する場合)又は血液サンプル中に生来
 存在するI g Gのいずれかは、望ましくないことであるが白血球に対してセンサ表面をオ
 プソニン化するよう作用する可能性があると考えられる。さらに、アッセイビーズはその
 サイズが、貪食の天然の標的である生体細胞(細菌)と同様であるので、おそらくはアッ
 セイビーズ上でのI g Gの蓄積によって、望ましくないことであるがこれらビーズ上での
 白血球の蓄積が促進される。これは、白血球数が高いサンプル及びおそらくは活性化免疫
 状態を有するサンプルで観察された干渉に矛盾しない。本発明は、この白血球の干渉に対
 する解決策を提供し、犠牲I g Gでコーティングされた微粒子をサンプルに含めることによ
 って、それらの粒子をセンサ上の1次免疫試薬から逸らすような、白血球活性に関する
おとり標的が提供される。